秋
小麦 №4

農時電送（のうじでんそう）

ＪＡ新はこだて若松支店、ＪＡきたひやま、ＪＡ今金町
檜山農業改良普及センター檜山北部支所　TEL 84-5514

秋まき小麦 赤かび病防除１回目は適期に！

秋まき小麦の出穂始は平年並の６月２日頃となりましたが、地域・ほ場による差が非常に大きくなっています。生育状況をよく観察し、防除適期を逃さない様にしましょう。

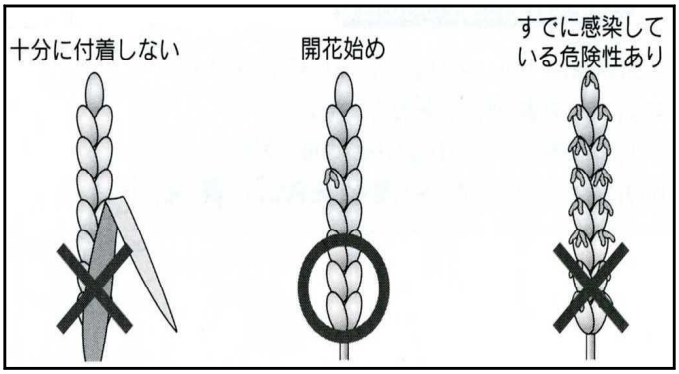
また、本年の茎数は過繁茂気味に推移しています。倒伏に注意してください。（本年：1,196本/㎡、平年：854本/㎡、６/１現在）。

☆赤かび病防除のポイント

防除適期は「開花始め（20穂のうち1穂に花が咲いた状態）」。

降雨が予想される場合には穂が出揃った時期の早めに防除を行いましょう。

※薬剤による「葉焼け」を防ぐため、夕方の涼しい時間帯に行いましょう。



ニューカントリーより一部改変

☆赤かび病の防除体系例

防除時期	薬　剤　名	使用倍率	使用時期	回数
開花始め	バラライカ水和剤	500	収穫14日前	2
	または リベロ水和剤	2,000	収穫７日前	3
1回目の7日後	ベフトップジンフロアブル	800～1,000	収穫14日前	出穂期以降 1
	または ミラビスフロアブル	1,500～2,000	収穫７日前	2
２回目の7日後	リベロ水和剤	2,000	収穫7日前	3
	または シルバキュアフロアブル	2,000	収穫7日前	2

☆尿素の葉面散布

止葉期に窒素の分肥を行わなかったほ場や例年低タンパク傾向にあるほ場では、窒素資材の葉面散布を検討し、品質確保につなげましょう。

尿素１～2%溶液（水100Lに尿素１～2kgを溶かす）を１～３回葉面散布

※ノズルがつまらないよう、尿素をバケツなどで溶かして使用しましょう。
※葉色が濃い場合や、高温の場合は「葉焼け」防止のため１%溶液を推奨します。
※「葉焼け」を防ぐため、夕方の涼しくなった時間帯に行いましょう。

○●適正管理で目指せ！１等Ａランク１０俵どり●○